

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 9 月 7 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202684		
法人名	医療法人ピーアイエー		
事業所名	グループホームつぼい		
所在地	広島市佐伯区坪井三丁目 8 1 8 番地の1 (電話) 082-923-8387		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202684-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202684-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年9月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者さまに、安心してゆったりとした生活を送っていただけるよう、お一人お一人の「今」を満足していただけるよう支援しています。グループホームならではのアットホームな環境に加え、隣接する母体のナカムラ病院の専門的な知識と手厚い支援により、急を要する医療にも迅速に対応します。四季折々の行事や外食、毎日の散歩など、ご利用者さまのそれぞれの思いが叶うように、より親身にきめ細かい支援を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者のペースでゆっくりと過ごして頂きたいとの思いから、職員は利用者を温かく見守っている。「行動抑制を行わない」の考えから、夜間以外、玄関・居室は施錠せず、利用者は好きな時間・好きな所に自由に歩けるように取り組んでいる。なお、職員は、玄関から外に出た利用者をそっと見守り、事故に備えている。温かい食事を提供したいと、毎日の食事は職員による手作りで、月に1回程度、利用者全員で外食を楽しんでいる。母体法人の歯科医師との協力で、食事を摂り易くする取り組みを行い、夜間緊急時には、病院当直医が対応するなど、母体法人が積極的に支援している。また、地域グループホームと「佐伯区グループホームネットワーク」を立ち上げ、管理者・職員相互の交流を行っている。地域自治会と「災害相互応援協力協定」を締結し、「自主防災連合会」と共に、年1回、大規模な災害訓練を行い、災害に備えている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と行動指針を定めた「職員ハンドブック」を、毎朝の申し送りで読み上げ、確認し、意識の統一を図っている。全員で話し合い、ホームの年間目標を設定し、それに基づいた個人目標を立て、半年ごとに評価、見直しをおこなっている。	「幸齢社会を創る」の法人理念があり、「職員ハンドブック」に法人理念・行動目標などが明示されている。毎朝のミーティングで、ハンドブックの読み合わせを行っている。また、当グループホームの半期目標「つばい目標」を作成し、それを基に職員の個人目標を立て実践し、半年ごとに評価を行って、目標を見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ご近所からのひな祭りの招待が、毎年の恒例となり、地域の皆さんとの交流の場となっている。散歩中にも声をかけてくださり、お祭りのお神輿も、毎年立ち寄ってくれている。	地域ボランティアが手伝って行われる「夏まつり」「茶会」などの法人行事に、利用者が参加し、外部の人との交流を行っている。毎朝、近辺を散歩し、その途中で近隣住民と会話をすることがある。地域グループホームと交流し、意見交換をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人内の地域連携センターが主体となり、協力体制を作っている。コミュニケーション誌を地域に配布し、認知症の勉強会等も開催している。相談、見学など、当グループホームで可能なことは、柔軟に対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	近況や日々の活動状況、事故等を細かく報告し、助言や評価を頂いている。民生委員、老人会、他の事業所からの情報や意見が、自分たちの見直しや励みになり、行事や外出等の参考になっている。	運営推進会議には、地域包括支援センター、民生委員が交代で参加し、また地域グループホーム管理者も参加して開催されている。会議では、他グループホームのイベントの情報を得て、ホームの行事に活用している。なお、家族の参加がないため、家族会を運営推進会議と同日にして、家族の参加を呼び掛けている。	管理者は機会ある毎に、運営推進会議に参加するよう、家族に要請しているが、今年度も参加がなかった。今後、運営推進会議事録を家族に送付し、報告事項や意見を閲覧して会議に関心を持って頂き、それらの情報提供等が、家族の参加に繋がることを期待します。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターと情報交換している。郵送していた運営推進会議の報告書を直接手渡しし、協力関係を築いて行きたい。	運営推進会議に参加する地域包括支援センター担当者と意見交換をし、様々な情報を得ている。今年度から、運営推進会議議事録を、区役所に持参し、担当者と面談する機会を作りたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアは当然のことと理解している。日中は施錠せず、玄関、自室のベランダから自由に入出りできるようにしている。職員の目配りと連携で、行動を制限することのないよう取り組んでいる。また、法人内の行動制限対策委員会に参加し、実践に向け協議している。</p>	<p>身体拘束については、新人研修で説明している。法人の「行動制限対策委員会」で、行動制限について学び「行動制限をしない」取り組みを行っている。その例として、玄関・居室は施錠せず、利用者は好きな時間に好きな場所に出かけ、玄関から外に出た際は、職員が利用者を見守り、事故に備えている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>業務や勤務体制に無理はないか、本人のモラル、不適切な言動を見過ごすことのないよう、管理者が気配りしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用中の方もあり、職員が制度の理解に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>本人、家族に見学していただき、相談員、管理者が説明し、理解を得たうえで同意を得ている。希望があれば、体験利用も受け入れ可能である。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の面会時に意見や要望を聞き、全職員で共有し、サービス向上につなげている。ご意見箱の設置し、年/1回、家族会を開催しており、また、直接言いにくいことは、相談員や主治医へも相談が可能である。</p>	<p>家族との面会時、ケアプラン見直し時、年1回の家族会などで、家族の意見を聞いている。しかし、今のところ、家族からの意見は少ない。家族間の交流や意見を聞く機会として、外出行事に家族の参加を呼び掛けているが、参加はない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者が日頃から、職員の意見を聞いたり、定期的なミーティングで面談をしている。</p>	<p>月1回の職員会議で職員の意見を聞いている。職員から出された意見は、季節行事や日常のレクリエーションに、反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人の就業規則と職能資格等級制度での人事考課規定があり、年間の目標を設定し、評価を行い、資格取得など各自が向上心をもって働くことができる環境づくりに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人全体で研修計画を立て、力量に応じた研修の機会を提供している。研修内容の要望も聞き、資格取得に前向きに取り組めるようアドバイスしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>佐伯区認知症グループホームネットワークに参加し、情報やグループホームで抱える課題を共有し、解決策について意見交換しながらスキルアップを図っている。お互いの運営推進会議にも参加している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前の相談や見学時に、ご本人の気持ちや日頃の生活状態等を伺い、ご家族と情報を共有しながら【暮らし方シート】等も利用し、グループホームの生活に馴染んでいただけるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前にご家族に見学していただき、当グループホームの日々の生活やリスク等を丁寧に説明し、質問を受けている。ご家族の要望や不安を聞きながら、お互いが理解し合えるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>法人の地域連携センター相談員と一緒に対応し、要望をしっかりとお聴きし、理事長、院長も参加する利用検討会議で、現在必要としているサービスを確認し、支援に繋げている。お試し利用も可能である。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人のしたいこと、得意なことが、自分でできるよう見守り、自信につながるよう支援し、共ら過ごし支え合う信頼関係を築き、継続できるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人の希望や思いを叶えるよう、ご家族と情報交換しながら支援しています。部屋にお花を飾ったり、定期的な外出など、ご家族からは、希望に沿った対応に協力して貰っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や近所の方との面会に、戸惑われることのないよう、家族と協力しながら支援している。</p>	<p>今まで利用していた理髪店には、家族に同行してもらっている。利用者の知人が当グループホームを訪問した際には、知人との会話が盛り上がるように、職員が手助けし、馴染みの関係が継続するよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性の悪い方や気の合う方の席を工夫し、皆さんに気持ち良く過ごして頂けるよう配慮している。利用者どうしで部屋を訪問したり、お互いが助け合う姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用後に連絡をいただいたり、お見舞いや葬儀後にお参りにお伺いさせていただいている。法人内の施設や病院へ移られた時は、利用相談時の相談員が引き続き担当している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今、利用者が何に興味を持っているのか、何に関心があるのかを、日常の会話や行動を通じて知るよう努めている。実現可能な事は、ケアプランに取り入れ支援している。	日常会話(特に入浴中)で把握した利用者の「思い」は、「申し送りノート」に記録して共有し、ケアプランに盛り込んでいる。利用者の得意な事を把握し、絵手紙・ぬり絵・脳トレ計算問題をケアプランに取り入れている。また「外食の要望」を実現する為に、「毎朝の散歩を行い身体能力を高める」目標を設定したケアプランもある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者がどうしてそのような行動をとるのか、どうしてそれを好むのかを知るうえで、これまでの生活環境や仕事、趣味やこだわりを、家族、兄弟や親戚から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	居室、リビングでの、それぞれの過ごし方をトータルで観察し、共同生活の中で何に参加できるのかを考え、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の状態や本人の気持ち、家族の要望を聞き、3か月毎に見直しを行っている。カンファレンスに出席できない職員には、意見やアイデアを書いてもらい、ケアプランに反映させている。</p>	<p>利用者毎に担当者を決め、担当者はモニタリングを行っている。ケアカンファレンスでは、他職員の意見を提出してもらい、ケアプランの見直しを行っている。職員は、担当する利用者以外のケアプランも熟知することが重要と考え、家族へのケアプランの説明は、職員全員が出来るよう取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録はカルテ、日誌に記入し、特変があった場合は、特記事項として連絡帳に記入し、申し送り事項として情報を共有している。必要があれば、ケアの変更を柔軟に行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内の施設や機能を活用しながら対応、相談支援を行っている。薬剤師、栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士が、いつでも相談、支援ができる環境が整っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の方々に、行事などのボランティアをお願いしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望する医療機関への受診や母体病院での定期的な受診など、それぞれの希望に沿った対応をしている。夜間の急変や緊急時は、母体病院の医師に往診をお願いしている。</p>	<p>本人・家族の要望により、かかりつけ医を決めているが、当グループホームの協力医をかかりつけ医とする利用者が多い。しかし、今までの主治医へ通院する利用者もいる。夜間急変時には、法人当直医と連絡を取り、対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	母体病院の看護師に、日頃の体調管理や受診の相談がいつでもでき、アドバイスや支援をお願いしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	法人内の病院と連携している。他の医療機関への入院の場合は、管理者がお見舞いし、家族や担当者と治療経過の確認や情報を交換し、退院後の生活支援を行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	利用開始時に、重度化した場合の対応や方針を説明し、同意を得ている。その後は、状態に応じて主治医も交えて話し合っている。終末期の対応については、法人の病院の協力を得て、支援している。	利用開始時に、重度化した際の要望を聴いている。重度化した際には、医療依存度の高い利用者は、医師と相談し、設備の整った医療機関に転院するようにしている。このようなホームの方針は、利用開始時に家族に説明し、了解を得ている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	救命講習に順次参加している。夜間の急変や転倒事故には、法人病院の当直医に連絡し、指示を受けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	法人内で支援体制があり、消防署員立ち合いで、年2回の避難訓練を実施している。五日市観音西地区自主防災会連合会と当法人で【災害相互応援協力協定】を結んでおり、災害時には避難場所の提供や援助をお願いし、お互いが協力できるよう訓練を実施している。土砂災害の避難訓練も実施している。	年2回の避難訓練では、消防署立ち合いの下に、法人全体の訓練と当グループホーム単独の訓練を行っている。地域自治会と相互協力を行う「災害相互応援協力協定」を締結し、年1回、「自主防災連合会」と一緒に災害訓練を行っている。その際には、法人全体が関わり、地域住民・消防署・利用者も参加して行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日常の中で、親しみのある会話の中にも、くだけ過ぎず、相手を不快にしないような言葉かけを心がけている。場合によっては周囲に気付かれないよう、その場は見守り、あとでそっと対応するようにしている。	法人主催の「接遇研修」には、全職員が参加し、勉強している。排泄介助時には、利用者のプライバシーに配慮し、利用者の個人情報外部に漏れないよう、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	イエス、ノーで答えられる質問を少なくして、スタッフの質問に言葉で返せるよう、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常の生活を利用者全員で開始、終了するのではなく、時にはその人のペースを見守り、さりげなく対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髭剃りの声かけや美容院の希望があれば対応したり、季節に合った衣類を準備し、本人の希望に合わせて、洋服を選んでもらってる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節や好み、行事や特別な日の献立を職員が交代で考え、食事を楽しんでいただくことを大切にしている。おやつやデザートと一緒に作ったり、食器拭きやテーブル拭きを手伝ってくださっている。	温かい食事を提供したいとの考えから、3食とも職員手作りの食事を提供している。食事を美味しく食べて頂けるよう、盛り付けにも気を配っている。月に1回程度、回転寿司やお好み焼きなどの外食をすることで、気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの必要量に応じて、バランス良く提供できるよう配慮している。形状も個々に工夫している。水分は3回の食事以外に、4～5回はこまめに飲用してもらうようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯磨きの声かけ、準備、見守りなど、個々に合わせた支援を行っている。定期健診、クリーニングや必要に応じ、歯科衛生士の助言や指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>それぞれの排泄パターンを把握し、できるだけ自分の意思でトイレに向かえるよう見守っている。必要時のみパットやパンツの確認をさせていただき、不潔にならないよう配慮している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行うが、決まった時間に誘導するのではなく、利用者の動作から排泄を察知し、トイレ誘導を行っている。出来るだけ布パンツを利用し、必要時のみパットを使用している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>お茶や牛乳、食事以外にも手作りゼリーなどからも、水分摂取できるよう工夫している。体操や散歩など、体を動かす機会をもうけたり、主治医と相談して便秘薬も使用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>自分のペースで衣類の着脱、洗身、浴槽に入れるよう、個々に合わせた支援をしている。湯につかり職員と会話することで、楽しい入浴時間が過ごせるよう、心掛けている。</p>	<p>職員と利用者が、ゆっくりと話をしながら入浴している。入浴中に利用者の昔話などを聞き、趣味や思い、今までの生活などを把握する機会となっている。利用者のペースに合わせて、焦らず、利用者の洋服選び・洋服の着脱を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の体調や、外出、行事があった時などの状況に応じて、休息の声かけをしたり、安眠できるよう空調の調整を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服用している薬が何であるかの説明書をいつでも閲覧できるように、カルテに綴じている。また、服薬による状態変化を把握し、記録している。疑問や不安は、いつでも薬剤師に相談できる体制になっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>自分も役に立っている、生活していると感じられるよう、本人が出来る範囲の仕事をお願いしている。（料理の下準備、食器拭き、テーブル拭きなど）趣味の絵手紙や塗り絵等も、自室で好きな時に自由に書かれている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>行事を通じて、花見や外食など外出している。また、個別に散歩したり、希望があれば、売店やコンビニに買い物に出かけている。</p>	<p>天気が良い日は、毎朝、近所を散歩することを日課としている。花見などの遠出外出や月1回の外食は、利用者全員が参加して行われている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭を使うかどうかを問わず、財布を持つ意思を認めている。スーパーへ買い物に行く機会を作ったり、病院の受診時は売店で欲しい物を購入されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話や公衆電話使用の際の、介助をしている。手紙の代読や年賀状の支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間は暖色の間接照明を使用し、日差しには、ロールスクリーンで対応している。絵や季節の花を飾り、気持ち良く過ごしていただけるよう配慮している。</p>	<p>ベランダのプランターで、季節の花やミニトマト、ピーマンなどを利用者と一緒に育てている。室内を清潔に保つよう心がけ、時には、通常の清掃以外に30分程度の時間を確保して、細部の掃除を行うようにしている。リビングには、行事の写真を掲示している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングで利用者同士で会話したり、新聞を見たり、カープの応援にも熱が入ります。キッチン前に座り、食事準備の様子を眺めながら、職員と会話するなど皆さん思い思いに過ごしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物や写真、自分の趣味の物を持ち込み、利用者本人の空間として生活されている。</p>	<p>今まで自宅で使用していた家具や家族写真を持ち込み、居室が快適な空間になるよう、家族と協力して取り組んでいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自分の居室とわかるように工夫したり、歩行能力を考え、動線が危なくないよう安全に配慮している。床は柔らかい素材で、転倒の衝撃が和らぐようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームつばい

作成日 平成28年10月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に、ご家族の参加がない。	御家族に会議に参加していただく。	御家族に運営推進会議議事録を送付し、興味、目的、関心をもっていただけるよう働きかけ気軽に会議に出席していただけるよう声かけする。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。